

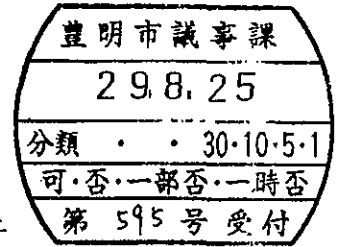
<参考>様式第2号

29 年 8 月 25 日

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 近藤郁子



29 年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成 29 年 7 月 27 日	秋田県潟上市	学力向上の取り組みについて
28 日	秋田県秋田市	もったいないアクション(食品ロス)について

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

7月27日 秋田県潟上市 「学力向上の取り組み」について

潟上市は、面積は県内最小の市で人口減少率も少ない。アクセス性があり、秋田市に隣接したベッドタウンで、豊明市と似た環境。

潟上市の現状、

- 小学校においては、国語Aがわずかに下回るが、その他は全国平均を上回る。
秋田県内平均と比較すると国語A・B、算数A・Bともにわずかに下回る。
- 中学校では、国語数学共に全国平均を上回るが、秋田県内平均と比較すると算数Aを除いてわずかに下回る。
- 秋田県では、県平均を基準としてみる傾向にあり、下回ると県教委より指導が入る。

学力向上の取り組み

- H28年全国学力・学習状況調査からみる課題は、共通して表現する力、読み解く力、比較・検証し判断する力の醸成が必要。
- 既にH29年の全国学力・学習状況調査の速報値から問題点～課題を見つけ対応していく。
対応には指導主事2人で対応。

↓

- 授業では「問い」を発する子どもの育成→秋田の「探求型授業」
- 地域素材を最大限生かし、生きる力の強化に資する
- 土曜塾・寺子屋等学習支援
- 小中連携で9年間を意識した取り組み→大きなギャップはない
 - ・早寝早起き朝ごはん等身に着きたい学習・生活習慣（七つのはぐくみ）
 - ・基本的な学習のながれ（学び方・考え方）を身に着ける。家庭学習の習慣化
 - ・中学から小学校へ乗入授業
- 家庭学習の潟上市の独自の取り組み→質の向上を目指す
 - ・学年に応じた学習時間の目安

学力上位であることの分析

- 生活習慣の維持
 - ・昔からのライフスタイルの維持→
 - ・児童生徒の体格や運動能力が恵まれている。
 - ・地域が子どもを見守る風土があり、心を育てる。
 - ・学習塾がなく、授業をベースとした家庭学習の習慣化。
- 子供の個性と能力の伸長を支える→
 - ・課題解決のプロセス重視「探求型授業」と学習ノート。

豊明市で取り組めること

以前、秋田市を視察した。秋田市と豊明市では環境面で比較することが難しいと考えたが、県内で細やかに取り組まれていることに驚く。学力上位についての分析で学習塾が少ない(潟上市にはない)ことで、学習目標が県教委で設定しやすいことも重要なポイントだと思われる。

秋田県教委のリーダーシップの賜物で、県平均を下回ると県教委から指導が入ることで常に全国トップクラスをキープしていることは否めない。

説明の中で、先ず豊明市だけでも今後できることはテスト等の中で無回答はしない！ということ。正解まで解答できなくても、プロセスは正解ということもある。それを重要視していることは、その後の学習につながるのだと考え、市教委が行うどよう塾からでも行ってもらいたい。

7月28日 秋田県秋田市「もったいないアクション(食品ロス)」について

○日本の食品ロスと秋田市の現状

日本における食品ロスは、食料自給率が低く約6割を海外に依存しているにも関わらず世界全体の食糧援助量の約2倍。秋田市では家庭ごみの半分が食べ残しを含む生ごみ。

- ・食品ロス削減の取り組みの一環として、もったいないアクションを進める。

○秋田市が進める食品ロス削減

- ・食品のロスについては、環境課による家庭ごみをはじめとするごみの組成調査の結果による。その結果、食べ物をゴミにしないために、次のポイントを挙げた。

- ①計画的に購入する
- ②食べきりの量を調理する
- ③おいしく食べきる

ということを環境課で行う講座や各種説明会等で秋田市における現状を知らせ、減量ポイントを紹介。

○もったいないアクション

- ・家庭以外に、飲食店にも協力を得て、
 - ①「食う～べえタイム」のご案内の協力
 - ②店内に「啓発ポスター」「啓発ポップ」の設置依頼
 - ③協力店の紹介

豊明市で行うために

豊明市でも今年から食品ロスについてポスターを作成して、啓発を行っている。しかしながら、その啓発は啓発に留まって実際の取り組みは、まだ行われていない点から今回の視察は取り組みのいいお手本になった。

食品ロスは、地域だけの問題でなく、日本全体の問題ではあるが、日本全体でとなると実感が湧きにくく、問題意識も遠ざかるが秋田市では秋田市の実態を調査し、市民に周知するところから取り組むことはわが町の状況として、理解・認識を持ちやすいと思った。

豊明市で取り組むならば、そこから始めるべきだろう。ごみ問題は食品ロスに留まらず、まちの環境に現れるものであり、花のまちというのは綺麗な環境の総称的なもの。

本当の花のまちにするために、ごみの削減はもとより、食品ロスに取り組むことは、今後の食料の自給率など多くの問題につながっていることを踏まえると、ポスターに留まらず取り組みは早く起こした方がよいと考える。生活の基本となる食に関しては、子どもの学力を伸ばすためには欠かせないことでもある。

秋田市を中心に秋田県が学力においても、全国トップレベルであることもうなずける。